

平成 22 年 7 月吉日

会員各位

日本国際観光学会／日本余暇学会／ツーリズム学会
第 2 回観光・余暇関係諸学会共同大会実行委員会
実行委員長 飯嶋 好彦（東洋大学）

第 2 回 観光・余暇関係諸学会共同大会 のご案内（第 1 報）

拝啓

暑さ厳しき折、皆様いかがお過ごしでしょうか。平素は各学会の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年 9 月、初めて観光・余暇関係の 5 学会が一堂に会する「観光・余暇関係諸学会共同大会」が開催されました。この大会では、観光立国を目指すわが国において、学術の立場からさまざまな問題提起がなされ、多くの議論が交わされました。本年も第 2 回大会として、日本国際観光学会、日本余暇学会、ツーリズム学会（以下：「3 学会」という）が集い、東洋大学にて開催することが決定いたしました。

昨年は 50 名以上が個別テーマに関して研究発表をしたほか、各学会の紹介、そして各学会の会長による共同シンポジウムも開催されました。本年も下記の通り、個別研究発表の申し込みを募集いたします。なお、発表者は、大会当日に発行される『観光・余暇関係諸学会共同大会学術論文集』にも投稿が可能です。皆様、奮ってのご参加をお願いいたします。

敬具

記

1. 第 2 回 観光・余暇関係諸学会共同大会開催概要

- 開催日時 : 2010 年 9 月 25 日(土)
大会参加費 : ¥3,000- (いずれの学会でも非会員の場合¥4,000)、懇親会費 : ¥4,000
※学生の参加費は学部学生、大学院生問わず、4 学会会員・非会員とも¥1,000 です。
※ただし、日本観光研究学会、日本ホスピタリティ・マネジメント学会会員は 3 学会会員と同様とさせていただきます。
開催場所 : 東洋大学 白山第 2 キャンパス (〒112-0001 東京都文京区白山 2-36-5)

2. 個別研究発表者の募集

(1) 発表者募集

- 申込の資格 : 3 学会の会員（準会員・学生会員などの申込については各学会にお任せ致します）、日本観光研究学会会員、日本ホスピタリティ・マネジメント学会会員
- 申込方法 : 添付の用紙にご記入の上、E-メールにてお申し込みください。
申込先 … 宮本博文 miyamoto.hirofumi@nifty.ne.jp
- 申込期限 : 2010 年 8 月 7 日(土)

(2) 投稿募集

- 研究発表の内容に即した投稿も募集致します。添付のテンプレートを基にご執筆いただき、E-メールにてお申し込みください。投稿先は、発表申込先と同じです。

- 投稿種別 : 論文 (査読つき), 研究ノート, その他著作, 発表要旨
- 投稿規程 : 添付の用紙 B をご参照ください。
- 執筆要領 : 添付の用紙 B をご参照のうえ、テンプレートを基にご執筆下さい。(以下、抜粋)
 - ・24 字×40 行×2 段組み
 - ・論文 : 7~8 ページ, 研究ノート : 5~6 ページ, その他著作 : 4 ページ以内, 発表要旨 : 2 ページ
- 投稿料等
 - ・論文の場合 : ¥15,000 (※査読の結果, 研究ノートとして採用されたとしても, 差額の返金はありません。ご了承ください。)
 - ・研究ノート : ¥10,000
 - ・その他著作・発表要旨 : 無料
- 原稿投稿締切 : 2010 年 8 月 21 日(土) 投稿先は, 発表申込先と同じです。
投稿先 … 宮本博文 miyamoto.hirofumi@nifty.ne.jp

以上

- 開催場所 : 東洋大学 白山第 2 キャンパス (〒112-0001 東京都文京区白山 2-36-5)
都営地下鉄三田線 白山駅 A1 出口より徒歩 6 分



【第 2 回 観光・余暇関係諸学会共同大会実行委員会】

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 青木 禎斉 (㈱チューブ) | 佐野 浩祥 (立教大学) |
| 飯嶋 好彦 (東洋大学) | 島川 崇 (東洋大学) |
| 崎本 武志 (LEC 東京リーガルマインド大学) | 下島 康史 (桜美林大学) |
| 佐々木 一彰 (日本大学) | 徳江 順一郎 (㈱アトレイユ・コーポレーション) |
| 佐々木 雅紀 (タナカ印刷㈱) | 宮本 博文 (自由が丘産能短期大学・中小企業診断士) |
| | (アイウエオ順) |

第 2 回 観光・余暇関係諸学会共同大会・個別研究発表申込／学術論文集申込用紙

ご氏名		ご所属	
Name			
ご連絡先住所	勤務先／自宅	←いずれかを消して下さい	
〒			
電話		FAX	
E-mail			
テーマ（研究発表名）			
学術論文集種別	論文・研究ノート・その他著作・発表要旨	←いずれかご希望の種別を残し、他は消して下さい	
テーマ／題名			※このまま論文名として掲載します
※原稿送付は 2010 年 8 月 21 日(土)で結構です。8 月 7 日(土)までには、本状のみご送付ください。			

申込先 … 宮本博文 miyamoto.hirofumi@nifty.ne.jp

申込期限:2010年8月7日(土)

観光・余暇関係諸学会共同大会学術論文集投稿規定および執筆要領

[投稿規程]

1. 投稿資格

原則として観光・余暇関係諸学会共同大会（以下、「共同大会」という）参加学会会員に限る。

2. 投稿の内容およびその適否

- 『観光・余暇関係諸学会共同大会学術論文集』（以下、「本論集」という）には、未公開の著作および共同大会における研究発表等に基づいたもののみ発表可能とする。
- 著作物は、『論文』、『研究ノート』、『その他の著作物』および『発表要旨』とし、投稿者はそれらの形式を必ず明示してその規定にしたがうものとするがその判断を編集委員会に委ねることができる。
- いずれの著作も、原則として、共同大会で口頭発表するものの内容を推敲・発展させたものを優先させる。
- 『論文』掲載の適否は匿名のレフェリーの審査によるとするが、論文以外の著作物は観光・余暇関係諸学会共同大会学術論文集編集委員会（以下、「編集委員会」という）が決定する。レフェリーは原則として、編集委員会にて決定し、編集委員会が委託するものとする。なお、『論文』審査はレフェリー2~3名によって行う。
- 『論文』掲載は、レフェリーと投稿者との間で『論文』に関する疑問点・変更・訂正・改善点等に関する意見交換を編集委員会経由で行った後、レフェリー2名が掲載「可」と判定した場合に限る。
- レフェリーは、投稿者との意見交換の後、投稿者により改善・訂正された『論文』を再度審査し、掲載の適否を所定の用紙に記入し、予め定められた期日までに編集委員会宛提出しなければならない。
- 『論文』の審査過程・内容および審査結果は非公開とするが、編集委員会は審査終了後、すみやかに掲載の適否を投稿者に知らせなければならない。
- 編集委員会は、審査の結果、掲載「可」の判定が下された『論文』であっても、レフェリーからより一層の改善点が指摘された場合には投稿者にその旨を伝え、再度推敲を求めることができる。
- 著作物の投稿原稿は「執筆要領」を順守し、所定の期日までに編集委員会に提出するものとする。なお、「執筆要領」を順守しない場合や期日までに到着しない投稿原稿は受理しない。

3. 出版権および著作権

- 観光・余暇関係諸学会共同大会実行委員会（以下、「実行委員会」という）は本論集の出版権および編集著作権を所有する。投稿者は本論集に掲載された『論文』『研究ノート』『その他の著作物』『発表要旨』の著作権の管理を実行委員会に委嘱する。
- 投稿者が『論文』『研究ノート』『その他の著作物』『発表要旨』を他の媒体（電子媒体含む）に転載する場合および複製する場合、あらかじめ編集委員会にその旨届け出なければならない。編集委員会は著作物の転載および複製に関し、その使用が適正であると認めた場合、投稿者にその使用を許可する。

4. 掲載料

掲載料については、別途編集委員会で定めるものとする。

[執筆要領および提出方法]

1. 著作物の原稿文字・用紙サイズ・枚数

- 原稿文字は、パソコンのワープロ機能で入力する。原則として、マイクロソフト・ワードの2003以上とする。
- 原稿サイズはA4サイズとし、横24文字×縦40行で2段組みとする。
- 『論文』は7~8枚、『研究ノート』は5~6枚、『その他の著作物』は4枚以内、『発表要旨』は2枚以内とする。

いずれも題名、執筆者名、所属機関、図表等、すべて含めたものとする。

2. 題名・執筆者名の記載方法

- 1). 原稿 1 枚目の冒頭には、題名・執筆者名並びに執筆者の所属機関・職名（和文および英文）を記載する。
- 2). 題名は、和文による執筆の場合は和文タイトルを記載し、あわせて欧文タイトルを和文タイトルの下に記載する。
- 3). 執筆者名には、ヘボン式ローマ字を併記する。なお、姓を先に記載すること。（例： KANKO, Taro）
- 4). 執筆者所属機関・職名については、「筆者は〇〇〇〇である」と記載すること。なお欧文表記も記載すること。

3. 本文・注・引用・参考文献・要約等の記載方法

- 1). 和文による記述は、横書き・常用漢字・現代かなづかいを原則とする。
- 2). 『論文』『研究ノート』のみ、前文に和文の要約とキーワード 3~5 程度を 400 字~500 字以内で、次に欧文要約およびキーワード 3~5 程度を 200 字~250 字以内で添付する。本文が欧文の場合は、欧文と和文を逆にする。
- 3). 他の著作物から引用する場合は、原則として、引用個所に典拠（著者名および著作物名、発刊社名）を明記する（例 1）。しかし、本文の該当個所に 1) のように通し番号をつけ、「注」「引用文献」として本文末尾に一括して番号順に記載してもよい（例 2）。

例 1： 「〇〇〇は〇〇〇である（XXX 著『ツーリズム』XYZ 社刊）」

例 2： 1) ツーリズム（2000）11 ページ

2) Tourism（1999）を参照

- 4). 参考文献は本文末または「注」「引用文献」の後に一括して記載する。記載の順番は著者の姓のアルファベット順とするが、同一著者の場合には発表年次が新しい文献から順次記載し、発表年次が重なる場合、a, b, とつける。
- 5). 図表や写真等の点数は必要最小限とする。なお、図表等の縮小・拡大は、編集委員会の裁量とする。

4. 提出方法

- 1). 『論文』を投稿の際には、完成原稿と同じ体裁の原稿データを、編集委員会の指定する方法により編集委員会の指定した先に送付する。査読後に修正を求められた場合も同様とする。
- 2). 『論文』以外の著作を投稿の際には、完成原稿と同じ体裁の原稿データを、パソコンの OS の種類とワープロソフトの種類（ワードを原則とする）とを明記したメディアとともに、編集委員会の指定する方法により編集委員会の指定した先に送付すること。図表等は必ずしもデータ入力する必要はないが、その場合には、鮮明な図表等を提出する。
- 3). 「掲載可」となった『論文』は、完成原稿と同じ体裁の原稿データを、パソコンの OS の種類とワープロソフトの種類（ワードを原則とする）とを明記したメディアとともに、編集委員会の指定する方法により編集委員会の指定した先に送付すること。その際、レフェリーから指摘された改善等を推敲修正が完了されたものとする。図表等は必ずしもデータ入力する必要はないが、掲載する場合、鮮明な図表等を提出する。
- 4). 投稿した原稿（図表等含む）は、原則として、返却しない。

4. 校正

著者の校正は、原則として、編集委員会の定めるスケジュールにしたがい執筆者の責任において行うが、必要に応じて編集委員会が行うことができる。

5. 掲載誌の進呈

執筆者に対する掲載誌の進呈については、別途編集委員会で定める。